

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進 ・「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 教育課程・学習指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒アンケートでは、指導内容や指導方法、教員への信頼度など教員に対する評価は昨年度よりも高くなっているが、保護者アンケートでは、全体的に肯定的評価は昨年度よりも低く出ている。今年度から年3回の学習会、夏季学習会、校外研修など新たな試みを始めたが、学校での活動が生徒を通じて保護者に伝わっていないと考えられる。 今後は、これまで以上に、HPやメールを活用して保護者への通知を行い、家庭との連携をはかっている。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇個に寄り添った丁寧な個別指導を行う。 ◇卒業後の進路を視野にいれて、自己理解を促す。 ◇HPやすぐメール、通信を活用して、家庭との連携をはかる。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主任を中心として情報を発信し、全職員で情報を共有し、共通理解のもとで生徒指導・支援にあたる。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 使用教材の見直しや指導・支援の方法を見直し、生徒の実状に合ったレポート作成・授業を行う。 (2) 協働する意義やソーシャル・スキルを学ぶ機会を学校生活の中にも多く設け、自己理解を促す。 (3) HPを見やすくし、速やかに更新する。	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 生徒および保護者を対象とするアンケート結果の分析(レポート・テスト等の関連項目) (2) ソーシャル・スキルレポートおよび各行事でのアンケート分析、スクーリング時の観察 (3) 保護者アンケートの結果分析
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・各教科でレポート評価基準を明確にし、客観性を高めた。 ・生徒の作成したソーシャル・スキルのレポートを全職員で回覧し共通理解をもって指導・支援した。 ・長い文章を使わず画像で示し、写真や動画を多く掲載した。	・分析結果がレポート・授業改善に反映しているか。 ・生徒の実態に合った指導・支援ができていくか。 ・保護者に情報が行き渡っているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果・	○個々の生徒に適した指導・支援を行えるように、教員間で密に情報交換し、共通理解のもとで指導・支援にあたったことで、生徒の満足度が増したと考える。	
	総合評価 A (B) C D	

課題	▲生徒の多様化が進み、特別支援的アプローチや医療的対応が求められるケースが昨年度よりも増している。関連機関との連携や生徒理解のための職員研修が必要である。	
13	来年度に向けての改善方策案 個々の実態に合った学習計画を立て、保護者と連携を取りながら指導・支援にあたる。各学習期間に学習状況を振り返り、学習計画を見直す。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画についての支援や精神的なケアを必要とする生徒の情報を教員間で共有し、積極的に指導が行われることはよい。</li> <li>・全ての生徒をもれなく教育の場に導いている先生方の努力は大変評価できる。</li> <li>・自学自習は大変難しいと思う。生徒へのきめ細かい支援をお願いしたい。</li> </ul>
--

【別添2】（様式例2）

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校通信制課程 学校番号 5813

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進 ・「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 生徒指導（教育相談）・特別活動・保健管理		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「いじめアンケート」に本年度は3件上がってきたが、適宜対応する事ができた。 ・いじめ防止や基本的モラル・マナーの指導に関する評価は生徒・保護者共に肯定的な意見が多い。また「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」に肯定的意見が多かった。これは、個に寄り添い、自己肯定感を高めようとする教員側の対応が評価されたものと思われる。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・安全・安心な環境づくりを進め、個に寄り添い、自己肯定感を高めるように努める。 ・自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築くとともに、社会性の育成に努める。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・少ない職員の中、分掌の主担当者を中心に、連絡を密に取り、全職員体制で取り組む。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒の実態把握のための各種アンケートの実施・分析を行い、懇談を随時行い、担任を中心に保護者・特別支援コーディネーターと連携して、生活及び学習の支援に努める。	(1) 心のアンケート、スクールライフアンケート、いじめのアンケート、生徒及び保護者を対象とするアンケートの実施と結果分析。		
(2) 生徒の主体性の伸長を図るため、学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に活動できるように計画的な指導・支援に努める。	(2) 学校行事・生徒会活動の参加率及び部活動加入者数及び活動状況・大会成績。		
(3) 良好な対人関係の構築や社会性を育むために、あらゆる場面を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、職員間での情報共有を徹底する。	(3) 職員会議・職員室での職員間の情報共有、必要に応じて養護教諭・SCや外部機関との情報共有。		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校や前籍校からの聞き取りにより、生徒の実態をできる限り早期に把握し、学校適応のための支援を行った。</li> <li>・社会的経験の少ない生徒実態に沿った基本的モラルや生活に必要なとされる知識・態度についての具体的指導を行った。</li> <li>・スクールカウンセラー等の外部機関と連携し、生徒を多面的に支援した。</li> </ul>	(1) スクーリング参加率やレポート提出率の維持等、通信制の学習活動に適応しているか。 (2) 生徒実態や課題に沿った指導・支援がなされているか。 (3) 学校組織マネジメントを機能させ、組織的な対応がなされているか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D
12 成果 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍でも安心。安全に参加できるよう学校行事の見直しを図り実施した。</li> <li>○多様化する生徒に対応するため、職員研修で「SOSの出し方」について学んだ。また、常に生徒の情報交換や情報共有を徹底し生徒指導に役立てた。</li> <li>・○生徒実態の多面的な把握のため、スクールカウンセラーとの連携を強化した。</li> <li>▲年々、年度途中でのリタイアが増加してきている（特に1年生）。原因を考察して次年度以降に生かしたい。</li> </ul>	総合評価 <input checked="" type="radio"/> A B C D
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本課程の特徴「自学自習」を、入学当初に生徒に徹底する必要がある。「プレスクーリング」等において、「出席時間数」・「レポート提出」・「定期テスト受験」などとともに「履修と修得」について年度末に困らないように、詳しく指導しなければならない。</li> <li>・コロナ禍においても安心・安全な学校行事を実施する。</li> <li>・多様化する生徒の実態を把握するため、特別支援教育コーディネーターを中心に保護者や外部機関との連携を今年以上に図る。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

<b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や学習ばかりでなく、社会経験の少ない生徒、社会へ出ることへの不安を抱えた生徒も多い。通信制の生徒も地域とのつながりを持てる機会があるとよい。</li> <li>・情報発信に関しては、様々な問題がある。情報リテラシーに関する更なる指導をお願いしたい。</li> <li>・生徒の多様性を重視した指導をお願いしたい。</li> </ul>
--

【別添2】(様式例2)

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校通信制課程 学校番号 5813

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。</p> <p>(2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒</li> <li>互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒</li> <li>郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒</li> </ul>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進</li> <li>「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成</li> <li>生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施</li> </ul>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒</li> <li>自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒</li> <li>生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇ 進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの項目において肯定的評価が増えた。</li> <li>1項目において「どちらでもない」が増えことにより、肯定的評価のパーセントが相対的には減っているが、実数では増えている。</li> <li>今回のアンケートの結果だけでなく、ほかのアンケートでも進路に強い不安のあると思われる保護者が一定数おり、微増傾向にある。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇望ましい勤労観・職業観を形成させて、社会的自立を促進する。</p> <p>◇主体的な進路設計ができるように指導し、卒業後の進路実現を目指す。</p>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 外部講師による進路講話及び職員による進路ガイダンスを実施して、生徒及び保護者の進路意識を高める。</p> <p>(2) 面接指導(スクーリング)及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供する。</p> <p>(3) 随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など、卒業後の進路を見据えた指導を個に応じて実施する。</p>	<p>(1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート</p> <p>(2) 生徒就業状況及び進路希望調査</p> <p>(3) 進路先決定状況</p>		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒就業状況及び進路希望調査を実施して実態把握に努めた。</li> <li>進路説明会、個別の学力補充、小論文指導、面接指導を実施した。</li> <li>外部講師による進路講話及び職員による進路ガイダンスを実施した。</li> </ul>	<p>①生徒の実態把握と情報提供は十分にできたか。</p> <p>②個々の進路希望に応じた適切な支援ができたか。</p> <p>③進路関係についての認識が深まったか</p>	<p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>	
12 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業予定者を対象に、具体的な学習指導、面接練習、志望理由書、履歴書等の添削指導と個別面談を繰り返し実施し成果を上げることができた。就職希望者についてハローワークとも連携して指導・支援した。</li> <li>○外部講師による進路講話及び職員による進路ガイダンスを実施し、生徒、保護者に有益な情報を提供することができた。</li> </ul>		総合評価 A (B) C D

題	<p>▲自己肯定感が低く、卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒が多い。具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や方法の工夫が課題である。</p> <p>▲進路に強い不安のあると思われる保護者が一定数おり、微増傾向にある。</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感の低い生徒や、多様な生育状況・家庭環境を持った生徒の進路実現に向けて、最善の支援が行えるように、全職員の共通理解によって個々の生徒の状況や日頃の様子に注意を払い、進路指導に活用する。</li> <li>飛驒通信やホームページへの掲載を通じて、保護者への進路に関する情報提供をより充実させる。</li> <li>面接指導や小論文指導をより充実させるため、通信制の職員がチームとして対応できるようにしたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も生徒個々の特徴を理解し、親身に指導していただきたい。</li> <li>地元企業の活性化を望む。生徒の可能性を伸ばす支援をお願いしたい。</li> <li>入学理由が様々な生徒への進路指導は大変難しいことであるが、丁寧な指導の継続をお願いしたい。</li> <li>自己肯定感の低い生徒、複雑な事情を抱えた生徒への自己理解を促し、進路意識を高める指導をお願いしたい。</li> </ul>
---